

KDrasterコンバート

RSTX3RS

ラスター+テキスト/ラスター変換プログラム



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056

横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<https://www.kernelcomputer.co.jp>

製品概要：

- ・ラスターデータをラスターデータに変換する。
- ・ラスターデータにテキストを合成し、ラスターデータに変換する。
- ・変換可能なラスターデータは次のとおりです。

読み込み可能なフォーマット	出力可能なフォーマット
BMP	BMP
CALSG4 (type1, type2 (tiled))	CALSG4 (type1, untiled)
CCRF	EDMICS (MMR, RLC)
DCX	EPSF
EDMICS (MMR, RLC)	FX-MMR
Exif	GIF
FORMTEK	HP-RTL (非圧縮, Packbits, MMR, MR, MH)
FX-MMR	IOCA (非圧縮, MMR, IBM-MMR)
GIF	JPEG
GTX (G4)	JPEG2000
IOCA (非圧縮, MMR, IBM-MMR)	MMR (G4 FAX)
JPEG	MR (G3 FAX)
JPEG2000	MH (G3 FAX)
MMR (G4 FAX)	MIEL
MR (G3 FAX)	PBM/PGM/PPM
MH (G3 FAX)	PNG
MIEL	PostScript
NSXPRESS (MMR, MR, MH)	PDF
PBM/PGM/PPM	PDF/A-1b
PCX	PDF/X-1a
PNG	Sun Raster (非圧縮, MMR, RLE)
Sun Raster (非圧縮, MMR, MR, MH, RLE)	SVG (JPEG, PNG)
TIFF (非圧縮, Packbits, JPEG, CCITT-1D, MMR, MR, MH, LZW, deflate)	TIFF (非圧縮, Packbits, JPEG, classF, CCITT-1D, MMR, MR, MH, LZW, deflate)
TOSFILE (MMR, MR, MH)	WBMP
WBMP	XDW (DocuWorks)
XBITMAP	XWD (X Window Dump)
XDW (DocuWorks)	
XWD (X Window Dump)	

(※) XDW (DocuWorks) を処理する場合、以下のいずれかのバージョンの DocuWorks がインストールされている必要があります。

- ・ DocuWorks 6
- ・ DocuWorks 7
- ・ DocuWorks 8 (8.0.3 を除く)
- ・ DocuWorks 9
- ・ DocuWorks 9.1

(※) サブスクリプション版の DocuWorks には対応していません。

- ・ Windows 版では Windows フォントを指定し、テキストを合成することが可能です。
- ・ Unix/Linux 版では TTF 形式のフォントファイルを指定し、テキストを合成することが可能です。

動作環境:

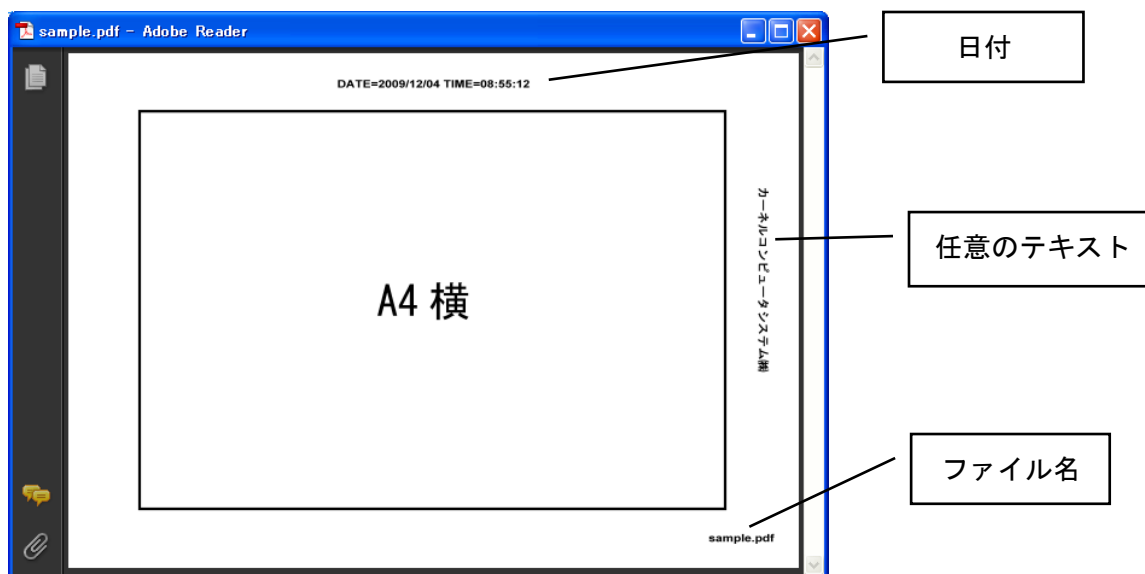
- ・Windows 版 : Windows Server 2008、Windows 7、Windows Server 2008 R2、Windows 8
Windows Server 2012、Windows 8.1、Windows Server 2012 R2、Windows 10
Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows 11、Windows Server 2022
- ・UNIX 版 : Solaris9 以降(SPARC)、HP-UX11i V2 以降、AIX6.1 以降
- ・LINUX 版 : RHEL4 以降あるいはそれに相当するカーネル 2.6 以降の x86/x64 系 Linux

製品構成:

- ・RSTX3RS : 実行モジュール
- ・ras_in.atr : 入力属性パラメータファイル
- ・ras_out.atr : 出力属性パラメータファイル
- ・text_in.atr : テキスト入力属性データ変換パラメータファイル
- ・sample.txt : テキスト合成データサンプル

価格: 35万(税抜き)

合成サンプル:



1. 基本操作

- ・ ラスターデータをラスターデータに変換するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。変換処理の詳細は、RS3RS の簡易マニュアルを参照して下さい。

```
実行モジュール名  入力ファイル名  -O出力ファイル名  -各オプション
```

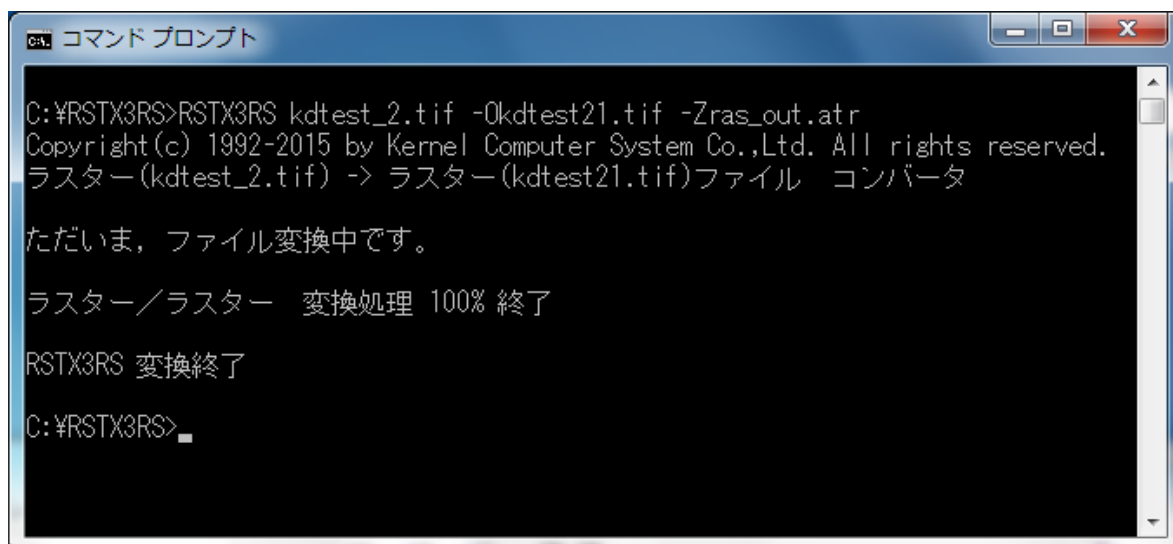
- ・ 変換実行例 :

```
C:¥EXEC> RSTX3RS inputdata.tif -Ooutputdata.tif -Zras_out.atr
```

- RSTX3RS : 実行モジュール名
- inputdata.tif : 入力するラスターファイル名
- outputdata.pdf : 出力するラスターファイル名
- O : 変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。
 マイナス記号とアルファベットの「オー」です。
 -O と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。
- Z : 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定することはできません。
 出力属性パラメータファイル名を指定するオプション。

※ オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。
※ オプションの詳細についてはオプションの項目を参照ください。

- ・ コマンドプロンプト (Windows 版) での実行画面 :



2. テキスト合成機能について

RSTX3RS は、イメージデータにテキスト(文字列)を合成してラスターファイルに変換します。テキストの他に、日付、ファイル名、ページ番号の合成が可能です。

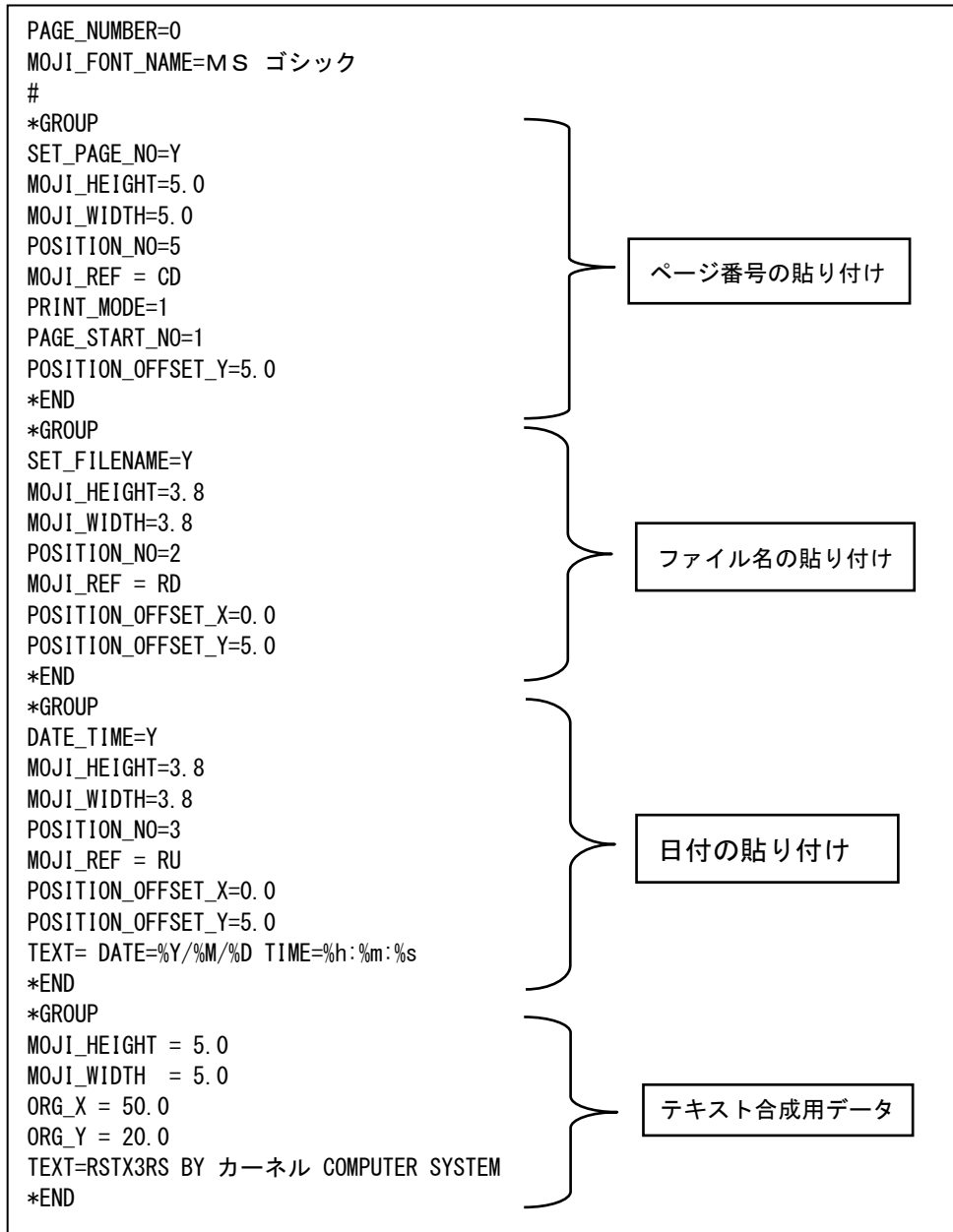
・処理の手順は、次のようになります。

- ① 合成するテキストの情報を記述した「テキスト情報ファイル」を作成します。
また、テキスト合成用の各種パラメータファイルを設定します。
- ② -TX[text_file]オプションでそのファイルを指定して、変換処理を実行する。

・変換実行例:

```
C:\EXEC> RSTX3RS inputdata.tif -Ooutputdata.pdf -Zras_out.atr -TXtext_file.txt
```

・テキストデータファイルサンプル



3. テキスト入力属性ファイル(text_in.atr)について

テキスト合成用の各種パラメータを記述するテキストファイルです。
ファイル名は「text_in.atr」固定です。

■ テキスト情報ファイルの文字コードを設定

KANJI_CODE = 文字コード

SJIS : シフト JIS コード
EUC : EUC コード
UTF8 : UTF-8 コード

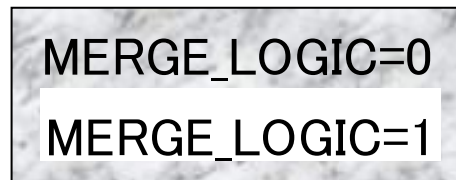
■ 合成文字の高さ、幅、文字間隔、傾きの設定

MOJI_WIDTH = xx.xx 文字幅(単位:mm)
MOJI_HEIGHT = xx.xx 文字高さ(単位:mm)
MOJI_SPACE = xx.xx 文字間隔(単位:mm)
MOJI_THETA = xx.xx 文字方向(単位:度)

■ テキストデータとラスターデータの合成方法設定

MERGE_LOGIC = 0,1

0:OR モード(色の濃い方を優先)
1:REPLACE モード(上書き)



■ テキストデータの作成方法設定(Windows 版のみ)

MERGE_FONT_WIN = Y,N

Y:Windows フォントを使用して、テキストデータを作成します。
N:弊社ベクターフォントを使用して、テキストデータを作成します。

テキスト属性ファイル内容(サンプル)

```
[ファイル名:text_in.atr]
##### text_in.atr #####
#FORMAT TYPE(TEXT ATTRIBUTE FILE)
IN_VERSION=TEXT_ATR
# kanji code(SJIS(default), EUC, UTF8)
KANJI_CODE = SJIS
# symbol_height(default 4.0mm)
MOJI_HEIGHT = 4.0
# symbol_width (default 4.0mm)
MOJI_WIDTH = 4.0
# symbol_color (default 1)
#MOJI_COLOR = 1
# symbol_theta
#MOJI_THETA = 0
# merge fill logic(0:OR(default), 1:REPLACE)
#MERGE_LOGIC = 0
# use Windows FONT mode(Y:use N:not use(default))
MOJI_FONT_WIN = Y
##### end text_in.atr #####
↑1カラム目
(注) 1カラム目が#のときは、コメントラインとなります。
```

4. テキストデータファイルについて

ラスター上に合成するテキストの情報を記述するテキストファイルです。各パラメータを設定し、任意の名前で保存してください。変換時に保存したテキストファイルを指定することによりテキスト合成をおこないます。

- グループ定義の開始&終了を設定します。*GROUP から*END の範囲で、合成するテキスト情報、表示位置などを設定します。

*GROUP グループ定義の開始
*END グループ定義の終了

- 合成するテキストを設定します。
半角 511 文字、全角 225 文字以内で設定。先頭の空白文字、TAB の指定、改行の指定は出来ません。

TEXT = XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXX : テキストデータ

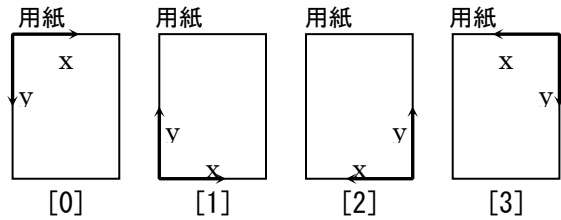
- テキストデータの表示位置の設定をします。初期値は 0.0 です。
原点及び軸方向は、MOJI_ORG により決定します。

ORG_X = xxx.xx 表示位置 X (単位 : mm)
ORG_Y = xxx.xx 表示位置 Y (単位 : mm)

- ORG_X, PRG_Y で設定する座標の原点と、軸方向を設定します。

MOJI_ORG = x 用紙の原点位置と座標軸の向き

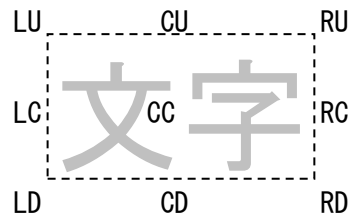
- 0 : 原点左上、X 軸右向き、Y 軸下向き
- 1 : 原点左下、X 軸右向き、Y 軸上向き
- 2 : 原点右下、X 軸左向き、Y 軸上向き
- 3 : 原点右上、X 軸左向き、Y 軸下向き



- ORG_X, PRG_Y で設定する座標が、テキストのどの位置を指定するかを設定します。

MOJI_REF = xx テキスト基準位置

- LU : 文字の左上を基準位置にします。
- CU : 文字の中央上を基準位置にします。
- RU : 文字の右上を基準位置にします。
- LC : 文字の中央左を基準位置にします。
- CC : 文字の中心を基準位置にします。
- RC : 文字の中央右を基準位置にします。
- LD : 文字の左下を基準位置にします。
- CD : 文字の中央下を基準位置にします。
- RD : 文字の右下を基準位置にします。



- テキストを表示に使用するフォントを設定します。
Windows 版ではフォントファミリ名称を、Unix/Linux では TTF 形式のフォントファイル名を設定します

Windows 版

MOJI_FONT_NAME = font name フォントファミリ名称

Unix/Linux 版

MOJI_FONT_NAME = font file name TTF フォントファイル名

- テキスト合成をおこなうページを設定します。

PAGE_NUMBER = xxxx ページ番号指定

- 0 : 全てのページに合成
- 1~ : 指定のページにのみ合成

- ページ番号の自動割り付けを設定します。
Y を設定する事で、ページ番号を合成する事ができます。

STEP_PAGE_NO = Y/N ページ番号割り付け設定

- Y : ページ番号の割り付けを行う
- N : ページ番号の割り付けを行わない

- ページ番号の自動割り付けで、割り付けを開始するページを指定します。

STEP_START_NO = xxx ページ番号割り付け開始ページ

- 1 : 最初のページから、ページ番号を割り付けます (最初のページがページ番号 1)
- 0 : 最初のページに、ページ番号を割り付けません (2 ページ目が、ページ番号 1)
- 1 : 3 ページ目からページ番号を割り付けます (3 ページ目が、ページ番号 1)
- n : (n+2) ページ目からページ番号を割り付けます (n+2 ページ目が、ページ番号 1)

- 日付、時間の割り付けを設定します。
Y を設定する事で、日付、時間を合成する事ができます。

DATE_TIME = Y/N 日付、時間割り付け設定

- Y : 日付、時間の割り付けを行う
- N : 日付、時間の割り付けを行わない

日付、時間の形式は、TEXT パラメーターで設定します。

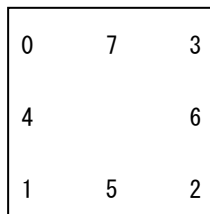
TEXT で文字列の中に以下のシーケンスが含まれていると、現在の日時の対応する値に置き換えられます。

%Y	4 桁の西暦年 (1999, 2000, ...)
%y	西暦年の下 2 桁 (99, 00, ...)
%M	数値で表した月 (2 桁、01-12)
%N	アルファベットで表した月 (3 文字、Jan-Dec)
%D	日 (2 桁、01-31)
%h	24 時間制の時 (2 桁、00-23)
%m	分 (2 桁、00-59)
%s	秒 (2 桁、00-59)
%%	% という文字

- ページ番号、日付、時間の割り付け位置を設定します。

POSITION_NO = xxx 割り付け位置

- 1 : ORG_X, ORG_Y で指定した位置に割り付けを行います。
- 0~7 : 下図の位置に割り付けを行います。



- ページ番号、日付、時間の図面端より、割り付け位置までの余白を指定します。

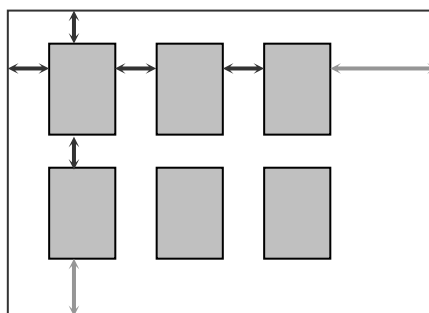
POSITION_OFFSET_X = xxx 横方向余白(単位:mm)
POSITION_OFFSET_Y = xxx 縦方向余白(単位:mm)

- 繰り返し合成の設定。
 指定の文字を画像全体に繰り返しで合成を行うか設定を行います。

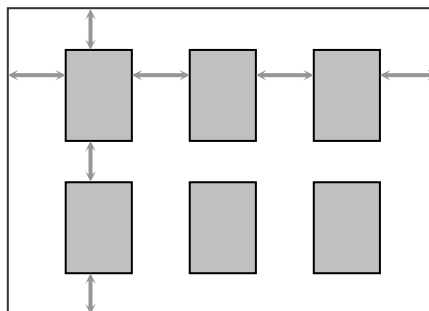
REPEAT = x 繰り返し合成設定

0 : 繰り返し合成を行わない

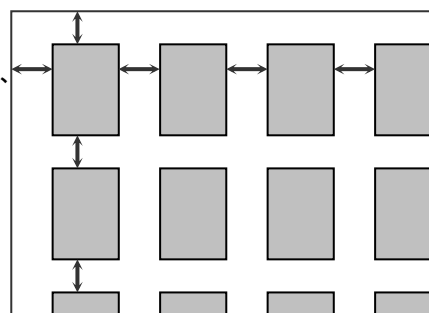
- 1 : イメージが原点側から等間隔で配置されます。原点側のマージンとイメージの配置間隔は指定どおりになりますが、通常、最後のマージンはそれよりも大きくなります。



- 2 : 上下左右のマージンおよびイメージの配置間隔が均等になるように、マージンを広げる方向で自動的に調整されます。この場合、間隔を厳密に指定することはできません、必ず対称的な配置になります。



- 3 : イメージが原点側から等間隔で配置されます。原点側のマージンとイメージの配置間隔は指定どおりになりますが、原点と逆の側についてはマージンを確保せず、用紙の端を超えるまで繰り返し配置されます。



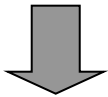
<テキストファイル合成の例>

コマンドライン入力

```
RSTX3RS in_file -Oout_file -TXsample.txt
```

テキストデータファイルの内容(sample.txt)

```
#####text data sample#####  
MOJI_HEIGHT = 6.0  
MOJI_WIDTH  = 6.0  
MOJI_THETA  = 0.0  
MERGE_LOGIC = 1  
  
*GROUP  
ORG_X = x1  
ORG_Y = y1  
TEXT=カーネルコンピュータシステム(株)  
*END  
  
*GROUP  
ORG_X = x2  
ORG_Y = y2  
TEXT=カーネルコンピュータシステム(株)  
*END
```



出力ファイル(out_file)

